

令和3年 決算特別委員会 総括質疑 開催状況
(経済部環境・エネルギー局環境・エネルギー課)

開催年月日 令和3年11月12日

質問者 日本共産党 宮川 潤 委員

答弁者 知事

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>二 気候変動対策について (三) 石炭火発について (宮川委員) さらに、石炭火発について、国では、「今後電源構成における比率を安定供給を大前提に低減させる」としてあります。道は「道内に賦存する石炭は貴重なエネルギー資源」として「有効活用」とすると答弁しました。必ずしも国の考える電源構成と一致するとは限らないという表明と受け止らざるを得ませんけれどもいかがでしょうか。「有効活用」とは、石炭火発を今後とも存続・稼働させるというお考えですか。伺います。</p> <p>(三) 一再 石炭火発について (宮川委員) 道内に賦存する石炭は貴重なエネルギーとされました。貴重というのはどういうことですか。環境への配慮を度外視した発言であり全く容認できないものです。貴重という意味を明らかにしてください。</p> <p>(三) 一再々 石炭火発について (宮川委員) 地域で確保できるということですが、国が2030年電源構成で石炭火発19パーセントとしていますけれども、道の現状としてはそれよりもはるかに高いんじゃないですか。 つまり、強力な働きかけをしなければ石炭火発は廃止できないし、電源構成を下げることもできないと思います。知事は北電に対して石炭火発の廃止を要求することが必要だと思いますけれども、そういう覚悟はお持ちですか。意思と覚悟をお示してください。</p> <p>【指摘事項】 (宮川委員) 知事としてはっきりと石炭火発廃止に向けて動いていただきたいということを指摘しておきます。</p>	<p>(知事) 石炭火力発電所についてでありますけれども、国のエネルギー基本計画では、我が国の電源構成に関して、石炭火力については、今後、安定供給を大前提にその比率を低減させることとし、2030年度においては、19パーセント程度を見込んでいただいております。 道としては、電源構成は、世界全体の温室効果ガスの排出削減や、海外からの安定的な資源の確保、国内における地域間の融通などを踏まえ、国全体として適切に設定されるべきものであると認識しています。 また、道内に賦存する石炭は、貴重なエネルギー資源でありまして、環境負荷の一層の低減を図りながら、有効に活用していくことが重要であると考えております。</p> <p>(知事) 石炭についてでありますけれども、道内に賦存する石炭は、資源に乏しい我が国において、地域で確保できるエネルギー資源であります。多くの企業の方々に関係するなど、地域の経済活性化や雇用の確保に大きな役割を果たしているところでございまして、水素・アンモニアの燃焼や、二酸化炭素の回収・利用・貯留技術の活用などの取組を進めながら、有効活用していくこと、このことが重要であると考えております。</p> <p>(知事) 石炭火力発電所ですが、北電グループは本年4月に2050年カーボンニュートラルの実現に向けた同グループの取組を取りまとめて公表したところでございます。その中で、水素・アンモニアの燃焼や二酸化炭素の回収・利用・貯留技術の活用によりまして火力発電の二酸化炭素排出ゼロを目指すとしていると承知をしております。</p>